新井田小

自ら課題へ向かい　共に学び合う子の育成

～問題解決的な授業展開を通して～

（３年計画の１年次）

校長　　成田　　明彦

１　研究主題について

本校では、教育目標に「夢に向かい　考え　行動する子」、努力目標に「考えぬく、なかよく、がんばりぬく」、学校目標に「笑顔で登校し、笑顔で下校する学校」を掲げている。

昨年度まで研究主題「主体的・対話的で深い学びができる子の育成」のもと、児童の思考に沿った学習課題「問い」を生み出す工夫、児童の思いや考えを広げ深める場の工夫について研修を進めてきた。

「問いを生み出す場面」では、教材を工夫したり、発問・指示を工夫したりしたことで、児童の思考のずれが生まれ、解決したいという学習意欲が高まり、主体的に課題に取り組む児童の姿が見られた。その一方で、課題設定に時間がかかり、自力解決の時間や振り返りの時間など、個でじっくり考える時間の確保ができないことが課題となった。

「思いや考えを広げ深める場面」では、交流の場面を意図的に設けたことで、友達と積極的に関わり合う児童の姿が見られた。しかし、友達の考えを聞くことで思考の広がりは見られたが、練り合うことでの深まりまでには至らないことが課題となった。

課題はあるものの、問題解決的な学習を進めてきたことで、児童が主体的に取り組む姿勢が身に付いてきている。そこで、今年度からは研究主題を「自ら課題へ向かい　共に学び合う子の育成」とし、昨年度までの研究成果を生かしつつ、対話的な学習に取り組ませながら、問題解決的な学習の充実・改善を図っていくこととした。日常の授業実践の中で、目指す児童像の育成につなげていきたい。

２　研究のねらい

自ら課題へ向かい共に学び合う子の育成のために、問題解決的な授業展開をどのように工夫していけばよいかを、国語科・算数科の授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

問題解決的な授業展開の中で「課題設定までの教師の働きかけの工夫」や「児童の思いや考えを広げ深める場の工夫」を行うことで、自分の考えをもって共に学び合う子の育成をすることができる。

４　研究内容

(1)　児童の思考に沿った学習課題「問い」を生み出す工夫

ア　児童の興味関心を高める教材を工夫する。
イ　発問・指示を工夫する。
ウ　立場の表明をする。
エ　見通しをもたせる。

(2) 児童の思いや考えを広げ深める場の工夫

ア　目的を明確にした交流の場を設ける。
イ　児童の思考過程を可視化（見える化）する。
ウ　発問・指示を工夫する。

５　研究の経過

（1）研究仮説に基づく授業研究

月	日	題材名・授業者	授業の概要
6	２８	第１回授業研究（４学年） 国語「アップとルーズで伝える」 授業者　講師　葛西瑠	段落ごとに分かれたワークシートを並べ替え、叙述を基に話し合う活動を通して、正しい段落構成について考えさせた。
１１	1	第２回授業研究（１学年） 国語「くじらぐも」 授業者　教諭　近藤唯華	挿絵に描かれている風景について話し合う活動を通して、くじらぐもにのっている子ども達がどんな会話をしたのかを考えさせた。
１１	２２	第６回授業研究（６学年） 国語「やまなし」 授業者　教諭　小笠原舞花	二枚の幻灯を比較させ題名について問いかけることで、宮沢賢治の作品に込めた思いを考えさせた。

（2）一般研修

月	日	研修内容	講師
5	３１	生徒指導における児童の共通理解について 特別支援教育について（授業参観・情報交換）	本校教諭　　昆春見 本校教諭　　階上明子
7	１２	緊急時の対応について（講話）	元養護教諭　　原田久美子
7	１９	緊急時の対応について（実技）	八戸消防署
8	２２	特別支援教育の視点を取り入れた授業づくり	総合教育センター 主任指導主事　　青木拓哉
9	２０	問題解決的な授業づくり	教育指導課 主任指導主事　　中村美穂
9	6	守ろう！私たちの健康を	ネット健康問題啓発者養成 全国連絡協議会
1	１２	新井田の歴史探訪	八戸市大館地区自治振興会 会長　髙橋芳久

６　研究の成果

(1)　「課題設定までの教師の働きかけの工夫」では、課題提示の仕方を工夫することによって児童の学習意欲が高まったり、思考のずれが生まれたりした。また、立場の表明をすることによって学習への参加意欲が高まり、主体的に課題解決に取り組む児童の姿が見られ、効果的であった。

(2)　「児童の思いや考えを広げ深める場の工夫」では、交流の場をペアやグループから全体へと段階的に設けたことで、児童全員に自分の思いや考えを伝える機会を確保することができた。また、様々な考えに触れることで、考えを広げることができた。

７　研究の課題

(1)　時間配分に課題が残った。課題設定までに時間がかかり、練り合いの時間や振り返りの時間が短くなってしまう傾向があった。短時間で児童に課題を共有させ、見通しをもって自力解決に向かわせることができるように工夫していきたい。

(2)　グループ交流では、話し合いをさせる内容や方法が不明確で、グループで話し合ったことが全体の交流につながらず、全体での練り合いが不十分だった。また児童の交流のスキルも未熟なため、お互いに自分の考えを伝えるだけで、相手との相違に気付いたり、よりよい考え方を模索したりと、考えを深めることが難しかった。今年度の課題を生かしながら、来年度の研修につなげていきたい。

（記入者　横沢深雪）